

～ 豊かな学びの実現 ～

## 丹原七夕夜市の運営に参画



西条市丹原地域のにぎわい創出に丹原高校の生徒が奮闘している。同市丹原町久妙寺の丹原総合公園で3日にあった丹原七夕夜市には、多くの地域住民の笑顔であふれる会場を、運営スタッフとして支える丹原高生の姿があった。大人たちと連携し、新たな伝統をつくる試みが始まっている。

### 西条・丹原高生 催し運営参画

## 地域活性化 若い力奮闘

### 「七夕夜市」に 得意分野生かし活躍 8ブース出店

①地元住民や帰省客、家族連れでにぎわった丹原七夕夜市  
②子どもとコミュニケーションを取りながら出店ブースを運営する丹原高生



丹原地域には恒例行事の一つに、多数の大きな飾りが商店街を彩る「丹原七夕夏まつり」があった。帰省客が集う夏の風物詩だったが、商店街の衰退や関係者の高齢化などが影響し、2018年に幕を閉じた。親しまれた地域行事の喪失に、周桑商工

会青年部メンバーを中心とする有志が19年から丹原七夕夜市を企画。同校生徒も深く関わってきた。

今年には約120人が射的やヨーヨー釣りなど8つのブースを設置。クライミング部員はクライミング体験、音楽部は演奏会で来場者を楽しませた。多肉植物の寄せ植え体験を行った園芸科2年黒川大翔さん(17)は「いろいろな人に教えながら取

一役買った。高齢化が進む地域だけに、若い力への期待は大きい。実行委の中心メンバーで同商工会青年部長の行元貴則さん(41)は「行事に関わる人が増えれば、それだけ多くの人の心に残る。イベントが地元に戻るきっかけになれば、地域活性化にもつながるはずだ」と語り、生徒との取り組みに手応えを感じている。

(高橋圭太)

生徒が、運営スタッフとして企画から運営まで参加。新たな伝統の創造と地域活性化に貢献しています。地域とともにある学校を目指しています。